琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.43
2016. July

発行者　琉球病院事務部長
有岡 雅之

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

認知症の治療から予防へ

認知症治療病棟　看護師長　横田 研治

琉球病院では認知症の治療を行っています。認知症を琉球病院で？精神科？と疑問の声をよく聞きます。認知症は脳の器質的変性を伴う病気で、脳の病気は精神科で診察・治療します。認知症と精神科がすぐに結びつかない社会の現状は、認知症に対する理解が広まっていない事を意味していると思います。

認知症の治療は、中核症状と言われる認知機能低下に対するものはありません。では、病院へ来て何をしているかというと、認知症の進行を遅らせることと、認知機能低下から派生してくる行動心理症状の軽減を行っています。妄想や幻覚、易怒性、睡眠障害、介護抵抗、脱抑制といった生活上困難を生じる症状に対しての治療を行い、家庭や施設で生活できるように治療していきます。

認知症治療のポイントは何かと言えば、早期介入です。治療法がない病気なので、早く治療を始めたほうが予後もいいです。また、治療介入が遅くなると家族や施設職員だけで患者さんを抱え込むこととなり、抱え込んだ人が疲弊していきます。病院へ入院して治療し穏やかな生活が送れるようになっても、大変な時の記憶が強く「もう見るのはイヤ」「うちの施設では受け入れられません」といった拒絶に合うこともあります。介護者の負担感を感じないように治療介入し、いつまでも住み慣れた環境で暮していけることが理想と思います。

最後に、認知症の予防について述べます。認知症は治らない病気ですが、予防は可能だと言われています。当院でも、今年4月から「もの忘れ予防教室」を始めました。医療機関が認知症予防に取り組むのは、全国でもまだ幾つかしかありません。沖縄県内では初めての取り組みです。認知症になったらこじらせない、出来れば軽い症状のうちに治療を始める。可能なら軽度認知障害(MCI)の段階で予防に努め、認知症にならないことが理想ではないかと思います。

認知症の予防

心理士　高江州　慶

認知症予防については、現在のところ「こうすれば認知症にならない」という確立した方法はまだ見つかっていません。しかし、最近の研究から「どうすれば認知症になりにくいか」という防御因子が少しずつわかってきました。認知症予防対策は、大きく分けて2種類あります。一つは、食事や運動、社会交流など適切な生活習慣が認知症予防になります。食事については、魚に多く含まれるDHAや、ビタミン類や葉酸を摂ることが認知症のリスクを下げると言われています。もう一つの予防対策として、現在注目されているのが、認知機能のトレーニングです。具体的には、デュアルタスク(二重課題)といって、一度に二つ以上の課題に同時に取り組むことで脳の活動が促され、認知力のアップにつながります。たとえば、「味噌汁を作りながら、野菜を刻む」、「電話をしながらメモをとる」といった普段行っているようなことを、体系的にトレーニング化して取り組むことで認知機能が維持されると報告されており、コグニサイズやシナプソロジーなどテレビでも取り上げられています。認知機能は認知症になってしまうと回復することはできませんが、認知症になる前の軽度認知障害(もの忘れが目立ってきたことを自覚できる)の段階であれば、トレーニングにより認知機能の維持、回復が期待できます。トレーニングには、「足踏みしながら引き算をする／しりとりをする」など様々な方法があります。当院では、検査を通して現在の認知機能をフィードバックしながら、もの忘れ予防教室で認知機能トレーニングや認知活動を促すプログラムを実施しています。生活に支障が出る前に、気軽に楽しく認知症予防を行うことを目指しています。

院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
  - 進捗状況　本体工事：請負業者　電気設備　・・・・・・・・・・・・(株)九電工
    - 機械設備　・・・・・・・・・・・・(株)三建設備工業
    - 建築(第２期)工事・・・・・・・・・(株)淺沼組
  - 新病棟（第１期工事）完成　・・・・・・・・・・・・・・平成27年７月

教育・研修

- 第47回琉球セミナー　「認知機能リハビリテーションと就労支援」
  - 日　時：7月8日(金)　17:30～19:30　場　所：研修棟
- 夕涼み会　日　時：7月15日(金)　18:30～20:30　場　所：西病棟中庭
  - こども民謡ショー・菜美里青年団エイサー・盆踊り・夜店・打ち上げ花火
- CVPPP院内外フォローアップコース研修　日　時：7月25日(月)　8:30～17:00

地域医療連携室だより

琉球病院では軽度認知障害(MCI)の維持・改善を目的とした、もの忘れ予防教室を開いております。MCIは、すぐに生活に支障をきたす程度ではないですが、徐々に進行し、4年間で約50％の方が認知症へと進行する認知症の予備軍です。(65歳以上の4人に1人が認知症か、MCIと言われています)「最近、物の置き忘れ増えたさ～」「あれ、名前がでてこないな～」などでお困りのことがありましたら、まずはお気軽に地域医療連携室にお電話下さい。

空床状況　6月27日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
10床	3床	4床	2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
地域医療連携室(直通)
TEL：098－968－3550
FAX：098－968－7370

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室(直通)　ＴＥＬ　098－968－3550
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年に1例目のクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は165例になりました。平成28年3月のCLZ導入は3例でした。3例とも他の病院からのご紹介例で入院中の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様もこれまで多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動もなくなり、隔離は全て解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成28年5月の治療実績は2例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

6月17日（金）に沖縄県子どもの心の診療ネットワーク事業の一環で川崎医科大学の青木省三先生をお招きし、『思春期・青年期の発達障害の理解と支援を考える』というテーマで講演会を実施しました。事前申し込みですでに定員の100人に達し、参加をお断りした方も多く、ご迷惑をおかけしました。

講演会は青木先生の温かで穏やかな語りに引き込まれ、あっと言う間の90分でした。講演の内容もすぐに実践に役立つもので「できることを探すよう努力すること。マイナス面ばかりを探さない、せっかちにならないことの大切さを学びました」「地味なやりとりの大切さ、その中でその人が活き活きとなる時間を見つけることなど、大切なのに問題を解決しようとなりすぎて見落としていたことに気づきました。対応についてマネしたいです」など、多くの感想が寄せられました。

今後も当院では子どもの心に関する研修会を実施予定です。HPやマンスリーでお知らせしますのでぜひご参加下さい。

認知症医療

6月3日・4日の2日間、神戸で認知症ケア学会が開催されました。当院からも毎年、研究発表を行っています。今回は学会で感じた全国の動きをお伝えします。

学会で企画されたシンポジュームや教育講演を見ると、平成30年度に完全実施となる認知症初期集中支援チームに関することが多く見られました。地域包括ケアシステムの構築といった課題もあり、日本全体が新オレンジプランの実現に向けて動いている様子が分かりました。。

そのような中で、先進的な問題提起として注目を集めていたシンポウムが、「家族支援」(認知症の人と家族の会愛知県支部)でした。「認知症の人を支える家族の支援」をキーワードに、たくさんの事例報告とディスカッションが行われました。認知症になった人にも気になることは沢山あります。「○○をしたい」「××は嫌だ」といったいろいろな思いがあります。この認知症の人の思いに応え、認知症の人の幸せを考えていこうとする社会の動き、システムはあります。しかし、介護するご家族の人権への配慮はありません。介護するご家族は「主たる介護資源」と安易に捉えられていないでしょうか。ご家族は介護者となったことで、「友達付き合いが少くなくなる」「お客さんを家に呼ぶことが出来ない」「趣味を続けられなくなった」「勉強・仕事をあきらめた」といった介護者が犠牲になる現実があります。認知症の人とご家族の会が作った「介護者憲章」の第1条には「介護者は1人の人であり支援を必要とする人とは別個の存在である」と記されていました。「認知症の人の家族の幸せをどう守るか」という問題を権利として前面に出していくということは新しい潮流です。認知症の人が増えてくるに従って、誰もが直面する重大な問題だと思います。

ご家族の幸せを医療の現場から見ると、ご家族を犠牲にした認知症ケアは良い結果をもたらさないという思いがあります。介護しているご家族が疲弊してしまうと優しさが失われ、ギスギスした不幸な人間関係しか残りません。医療は患者さんを中心として行われるものですが、ご家族の生活・幸せにも配慮しないと患者さんの幸せはありません。認知症の人とご家族をともに支えられる社会づくり、これこそが地域に暮らすみんなが共に幸せに生きていける街づくりだと思いました。

重症心身障がい医療

今回は平成24年10月に施行された、障害者虐待防止法についてふれたいと思います。虐待の種別としては①身体的虐待②心理的虐待③放棄放任④性的虐待④経済的虐待に分類されます。施設内では閉鎖的となりやすく、ご家族の立場ではあずかってもらっているという意識から、気付かれにくい側面があります。当院の重症心身障害病棟の利用者の多くは危険回避ができない事や、行動障害により本人及び周りへの危険が及ぶ事から、行動制限が必要となる事があります。行動制限を行うにあたっての三要件として①切迫性②非代替性③一時性があげられます。また、組織としての判断、カンファレンス、記録、ご家族の同意、職員研修等、行動制限実施にあたっての体制が必要となります。支援者一人ひとりが常に現状の支援方法で良いのか、改善方法等について考えていく事が求められます。支援技術としての「質」、人員数としての「量」共に重要であると考えます。また、本年4月からは障害者差別解消法が施行されました。障害者の方々が住みやすい地域生活に向けて、社会全体が歩んでいく事が求められています。

療育指導室長　金城安樹

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では5月現在、外来通院の患者様61名、入院中の患者様21名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

訪問看護登録者が200名を超えています。訪問範囲は北部全域、中部は浦添市までの訪問看護を行っています。治療抵抗性の統合失調症に有効なクロザピンを内服している方の訪問看護も40名を超えました。身体面の健康チエックや、生活の困りごと、生活の拡大を図るための相談等・・利用者のニーズに対応できるように日々地域情報を得ながら訪問活動を行います。地域の情報を得るために、地域活動支援センター、市町村の障害福祉課、保健所、包括支援センター等と情報共有や連携を取りながら、利用者へ適切な情報を提供することに努めています。

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室(直通)　ＴＥＬ　098－968－3550
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370